

ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。

本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

1：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウェブサイトをご参照ください。<http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html>

2：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。<http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html> に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

3：本書に記載の付属品・オプションアクセサリ・定格などは予告無く変更されている場合があります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

その他、動作や操作に関する良くあるお問い合わせは：

<http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html> のFAQページをご覧ください。

広帯域レシーバー

DJ-X1

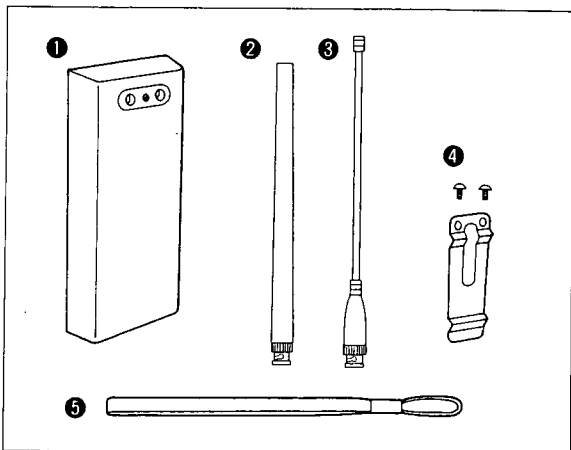
取扱説明書

ALINCO トランシーバーをお買上げいただきましてありがとうございます。

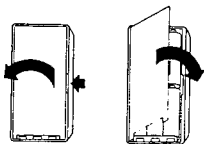
本機の機能を十分に発揮させて効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読み下さい。またこの取扱説明書は必ず保存下さい。ご使用中の不明な点や不具合が生じた時お役に立ちます。

2 付属品について

- ① バッテリーケース
- ② ローバンド用アンテナ
(低い周波数用のアンテナ)
- ③ ハイバンド用アンテナ
(高い周波数用のアンテナ)
- ④ ベルトクリップ (ビス2本)
- ⑤ ハンドストラップ
- 取扱説明書
- 保証書

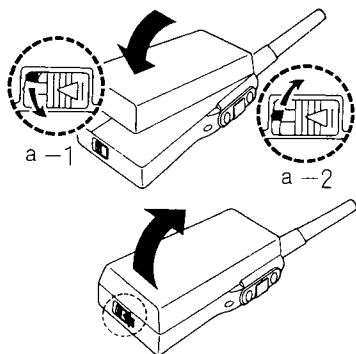


(1) 電池のセッティング



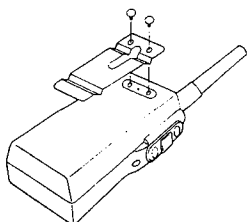
- a. バッテリーケースのフタをあけます。
- b. 市販の単三電池を6本入れます。
(長時間運用のためには、アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。)
- c. バッテリーケースのフタを閉じます。

(2) バッテリーケースの 取り付けと取り外し



- a. 取り付け
 - 1. 本体底のリリースロックノブを a-1 の矢印の様に押しロックを外します。
 - 2. バッテリーケースのつめを本体に差し込みバッテリーケースをロックするまで押します。
 - 3. 本体底のリリースロックノブを a-2 の矢印の様に押しロックします。
- b. 取り外し
 - 1. 本体底のリリースロックノブを a-1 の矢印の様に押しロックを外します。
 - 2. 本体底のリリースボタンを矢印の方向に押します。

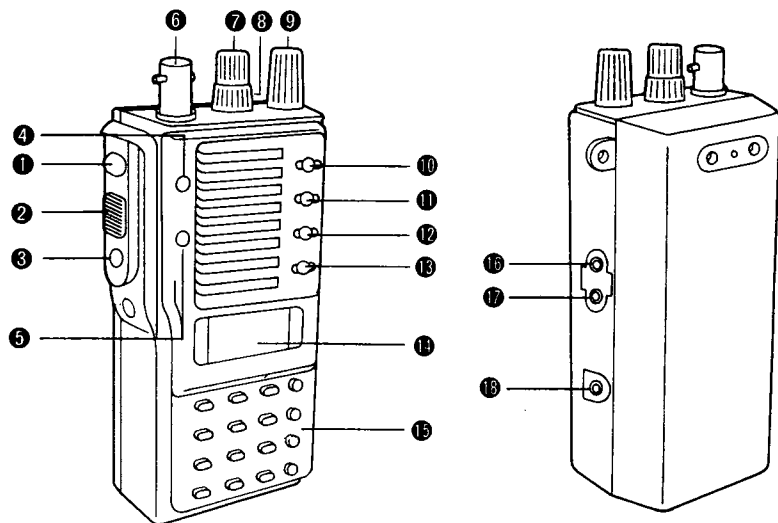
(3) ベルトクリップの取り付け



付属のベルトクリップをビス2本で本体の後側に図のように取り付けます。

3 各部の名称と機能

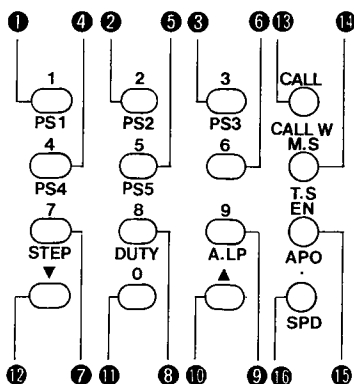
3-1 操作部



- ①ファンクションキー (Fキー) ファンクション動作をさせるときに使用します。
- ②ファンクション1キー (F1キー) ダイアルつまみで、周波数を1MHz単位アップダウンするときを使用します。(●5-1-1 周波数の合わせ方)
- ③ファンクション2キー (F2キー) ダイアルつまみで、周波数を10MHz単位アップダウンするときを使用します。(●5-1-1 周波数の合わせ方)
- ④LAMP/BEEPキー 照明を点灯、消灯するときを使用します。
(●5-9-1 ランプのON/OFF)
また、ビーブ音のON/OFFにも使用します。
(●5-12 ビーブ音のON/OFF)
- ⑤MON I /BSキー 一時的にスケルチ機能を止めるのに使用します。
(●5-11 モニター機能)
また、バッテリーセーブ機能のON/OFFにも使用します。
(●5-7-1 バッテリーセーブ機能のON/OFF)
- ⑥アンテナ端子 アンテナを取り付けます。(●4-2 アンテナについて)
- ⑦ボリューム/スイッチつまみ 音量ボリュームと電源スイッチになっています。
(●5-1-3 ボリュームの合わせ方)

-
- ⑧スケルチつまみ スケルチレベルの調整に使います。
(●5-1-4 スケルチつまみの合わせ方)
- ⑨ダイヤルつまみ 周波数やメモリーチャンネルの選択などに使います。
- ⑩MODE/MBキー 電波型式(モード)を選択するときに使います。
(●5-1-2 モードの切り替え)(●4-1 電波について)
また、メモリーバンクを選択するときにも使います。
(●5-3-1 メモリーバンクの選び方)
- ⑪V/M/MWキー VFOモードとメモリーモードの切り替えに使います。
また、メモリー書き込みやメモリーシフトに使います。
- ⑫SCAN/SKIPキー スキャン動作をさせるのに使います。
(●5-5 スキャン機能)
また、メモリースキャンのときのスキップ選択にも使います。
(●5-5-5 メモリースキップスキャン)
- ⑬PRI/FLキー プライオリティー動作をさせるのに使います。
(●5-6 プライオリティー機能)
また、ファンクションロック機能のON/OFFにも使います。
(●5-10 ファンクションロック機能)
- ⑭LCDパネル LCDに、受信中の周波数や各種の設定状態を表示します。
- ⑮キーボード 周波数を直接選ぶときに使います。
(●5-1-1 周波数の合わせ方)
また、色々なファンクション(機能)を動作させるのにも使います。
- ⑯外部スピーカー端子 外部スピーカー用の接続端子です。ボリュームによって音量が変わります。
- ⑰ラインアウト端子 テープレコーダー用の接続端子です。ボリュームによって音量が変わります。
- ⑱DC-IN 外部電源用の接続端子です。

3-2 キーボード部



①1/PS1キー

数字の1を入力するときに使います。

また、プログラムスキャンの(L1、U1)間のスキャンのときに使います。(●5-5-3 プログラムスキャン)

②2/PS2キー

数字の2を入力するときに使います。

また、プログラムスキャンの(L2、U2)間のスキャンのときに使います。(●5-5-3 プログラムスキャン)

③3/PS3キー

数字の3を入力するときに使います。

また、プログラムスキャンの(L3、U3)間のスキャンのときに使います。(●5-5-3 プログラムスキャン)

④4/PS4キー

数字の4を入力するときに使います。

また、プログラムスキャンの(L4、U4)間のスキャンのときに使います。(●5-5-3 プログラムスキャン)

⑤5/PS5キー

数字の5を入力するときに使います。

また、プログラムスキャンの(L5、U5)間のスキャンのときに使います。(●5-5-3 プログラムスキャン)

⑥6キー

数字の6を入力するときに使います。

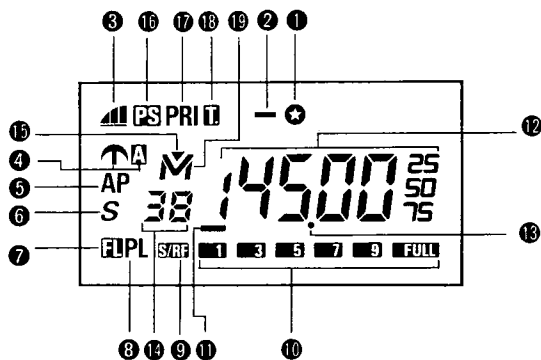
⑦7/STEPキー

数字の7を入力するときに使います。

また、VFOモードのチャンネルステップを選択するときにも使います。(●5-2-1 チャンネルステップの変更)

-
- ⑧8/DUTYキー** 数字の8を入力するときに使います。
また、バッテリーセーブ機能のON/OFFの時間を変えるのにも使います。(●5-7-2 デューティの変更)
- ⑨9/A.LPキー** 数字の9を入力するときに使います。
また、オートランプ機能のON/OFFにも使います。
(●5-9-2 オートランプ機能)
- ⑩▲キー** 周波数やメモリーチャンネルのアップ方向の選択に使います。また、サーチ機能にも使います。
(●5-5-2 サーチ機能)
- ⑪○キー** 数字の0を入力するときに使います。
また、オートモードセレクト機能のON/OFFにも使います。(●5-2-4 オートモードセレクト機能)
- ⑫▼キー** 周波数やメモリーチャンネルのダウン方向の選択に使います。また、サーチ機能にも使います。
(●5-5-2 サーチ機能)
- ⑬CALL/CALLWキー** コールチャンネルの呼び出しに使います。
(●5-4 コールチャンネル)
また、コールチャンネルの書き込みにも使います。
(●5-2-3 コールチャンネルの書き込み)
- ⑭M.S/T.Sキー** モードセレクトスキャン動作をさせるときに使います。
(●5-5-6 モードセレクトスキャン)
また、タイマースキャンのON/OFFにも使います。
(●5-5-7 タイマースキャン)
- ⑮EN/APOキー** 周波数やメモリーチャンネルをキーボードから直接入れる時に使います。(●5-1-1 周波数の合わせ方)
また、オートパワーオフ機能のON/OFFにも使います。
(●5-8 オートパワーオフ機能)
- ⑯./SPDキー** 周波数をキーボードから直接入れるときに小数点を入れるのに使います。(●5-1-1 周波数の合わせ方)
また、スキャンスピードを変更する時にも使います。
(●5-5-8 スキャンスピードの変更)

3-3 LCDパネル

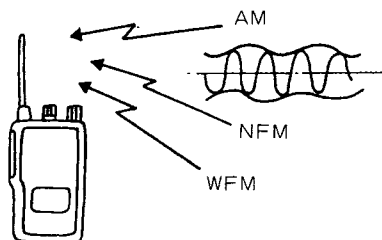


- ①BS表示
バッテリーセーブ動作中に点灯します。
(☑5-7 バッテリーセーブ機能)
- ②BS DUTY表示
バッテリーセーブ動作のON/OFF時間の状態を表示します。0.4秒：0.6秒のときに点灯します。
(☑5-7-2 デューティの変更)
- ③スキャンスピード表示
スキャンスピードの状態を表示します。バーの長さがいほどスキャンスピードは速くなります。
(☑5-5-8 スキャンスピードの変更)
- ④モード表示
受信している電波型式（モード）を表示しています。
(☑5-1-2 モードの切り替え)
- ⑤AP表示
オートパワーオフ動作中のときに点灯します。
(☑5-8 オートパワーオフ機能)
- ⑥メモリースキップ表示
メモリーモードのときに、メモリースキップが設定されているチャンネルで表示されます。
(☑5-5-5 メモリースキップスキャン)
- ⑦FL表示
ファンクションロック動作中に表示されます。
(☑5-10 ファンクションロック機能)
- ⑧PL表示
オートランプ機能動作中に表示されます。
(☑5-9-2 オートランプ機能)

-
- | | |
|--------------|---|
| ⑨BUSY表示 | 信号を受信すると点灯します。 |
| ⑩Sメーター | 受信している信号の強さに応じてメーターが振れます。 |
| ⑪1000MHz表示 | 1000MHz以上を受信しているときに点灯します。 |
| ⑫周波数表示 | 受信している周波数を表示します。 |
| ⑬小数点表示 | 周波数はMHz単位で表示されますので、MHz以下の表示のために点灯します。スキャン中は点滅します。 |
| ⑭メモリーチャンネル表示 | 現在のメモリーチャンネルを表示します。 |
| ⑮メモリーバンク表示 | 現在のメモリーバンクを表示します。 |
| ⑯プログラムスキャン表示 | プログラムスキャン中に表示しています。 |
| ⑰プライオリティ表示 | プライオリティ動作中に表示します。 |
| ⑱タイマースキャン表示 | タイマースキャンの設定がされている時に点灯していません。 |
| ⑲V/M表示 | 現在メモリーモードかVFOモードかを表示します。 |

4 広帯域受信機を使う前に知っておきたいこと

4-1 電波について



電波を受信する時は、受信する電波の周波数と電波型式（モード）を知っておく必要があります。

普通中波とかAMと呼ばれているラジオの放送は、522kHz（キロヘルツ）～1629kHzでAMになります。

522kHzと1629kHzというのが、周波数になります。周波数の単位はHz（ヘルツ）で、1000Hzが1kHz（キロヘルツ）1000kHzが1MHz（メガヘルツ）と呼ばれます。

AMは、電波型式のことです。電波型式はAM以外にも色々ありますが良く使われているのがFMと呼ばれるものです。更にFMは、FM放送と呼ばれている商業放送で良く使われるワイドFM（WFM）と、アマチュア無線などでよくつかわれるナローFM（NFM）に分かれます。

周波数と電波型式が目的の電波とあっていないと、音が歪んだり小さな音になってしまい正常に受信できません。本機では100kHzから1299.995MHzまでAM/WFM/NFMで受信できます。

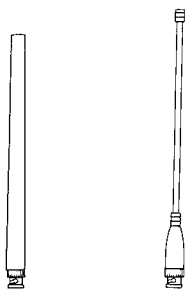
主な周波数と電波型式（モード）

| | |
|------------------|----------------------|
| 中波放送 | 0.522～1.629MHz：AM |
| 短波放送 | 3～30MHz：AM |
| FM放送 | 76～90MHz：WFM |
| 国内テレビ放送（1～3CH） | 95.75～107.75MHz：WFM |
| 国内テレビ放送（4～12CH） | 175.75～215.75MHz：WFM |
| 国内テレビ放送（13～62CH） | 475.75～769.75MHz：WFM |

（注）

本機では、短波帯やアマチュア無線などでつかわれているSSBやモールス信号（CW）は受信できません。

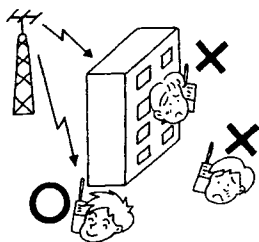
4-2 アンテナについて



0.5MHz～150MHz

100MHz～

電波を受信するときにはアンテナは必需品です。受信機の性能を十分に発揮させるにも正しいアンテナをつけてやる必要があります。アンテナは周波数にあわせて選んでください。本機には、低い周波数用と高い周波数用の2種類のアンテナを用意しています。100～150MHzぐらいで切り替えてください。低い周波数用が太いアンテナです。細い方が高い周波数用です。

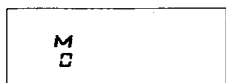


また、ビルの中やビル陰のように電波の届きにくい所では聞き取りにくいことがあります。そのようなときは、受信機やアンテナを窓際など受信し易いところにもって行ってください。

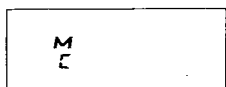
4-3 VFOモード、メモリーモード、コールチャンネル



VFOモード



メモリーモード



コールチャンネル

VFOとは、周波数の連続可変する機能です。普通のラジオのようにダイヤルや▲▼キーで、周波数を連続的に変化させて受信することができます。VFOモードとは、連続的に周波数を変化させて受信できる状態を言います。正確な周波数が分からないときに電波を探るときなどに使います。

メモリーとは、周波数を記憶する機能です。あらかじめ周波数が分かっている電波を記憶しておいて使います。メモリーモードとは、記憶したメモリーを呼び出せる状態を言います。テレビのチャンネルなどのように、不連続な周波数を記憶するときに使います。

コールチャンネルは、特定の周波数をワンタッチで呼び出すのに使います。

4-4 電波の探し方

あらかじめ周波数が分かっているときは、キーボードやダイヤルつまみなどで周波数を決めることができます。

(●5-1-1 周波数の合わせ方)

周波数が分からないときは、スキャン機能を使って探します。そのような場合でも、近い周波数に合わせておいてからスキャンさせると早く探せます。

(●5-5 スキャン機能)

4-5 スケルチ機能

NFMでもWFMでもFMで受信をすると、信号がないところではザーと言うノイズがでます。信号を受信していないのにノイズがでてしまうと、うるさいですし、電池も消耗します。スケルチ機能は、信号がでていない状態（ノイズが多い状態）では音がでないようにする機能です。(●5-1-4 スケルチつまみの合わせ方)

5 操作方法

5-1 受信の仕方

電波を受信するときは、周波数と電波型式（モード）をあわせてやる必要があります。周波数と電波型式が合っていないと、正常な受信が出来ません。本機ではオートモードセレクト機能で、よく使われる周波数帯ではその周波数帯に合った電波型式になるようにしてあります。放送局などの電波は、決ったチャンネルステップ毎に割り当てられています。例えば中波のAM放送などは9kHz毎に割り当てられています。周波数帯にあったチャンネルステップを選んでやることで、簡単に周波数を合わせることが出来ます。本機ではオートモードセレクト機能で、よく使われる周波数帯ではその周波数帯にあったチャンネルステップになるようにしてあります。

(●5-2-4 オートモードセレクト機能)

5-1-1 周波数の合わせ方

周波数は、ダイヤルつまみ、▲▼キー、キーボードによる入力で合わせることが出来ます。近い周波数はダイヤルつまみ、▲▼キーであわせて、離れた周波数はキーボードで入力すると簡単です。

(1)ダイヤルつまみでの合わせ方

ダイヤルつまみを時計方向に回すと、周波数はその時のチャンネルステップ分だけアップします。反時計方向に回すとチャンネルステップ分だけダウンします。

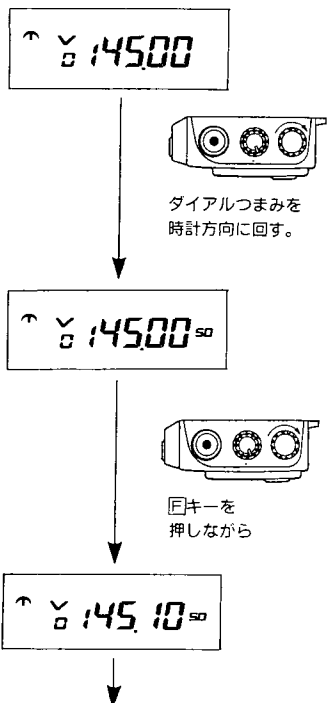
[F1]キーを押しながら回すと100kHz周波数が変わります。

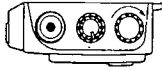
[F1]キーを押しながら回すと1MHz周波数が変わります。

[F2]キーを押しながら回すと10MHz周波数が変わります。

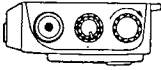
100kHz(0.100MHz)以下になると自動的に1299.995MHzより始まります。1299.995MHzを越えると100kHzより始まります。

100kHz台が「0」又は「5」になるとピーブ音がなりません。

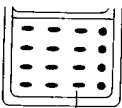
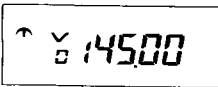
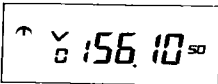




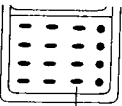
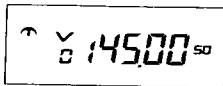
[F1]キーを
押しながら



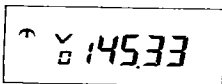
[F2]キーを
押しながら



▲キーを押す



▲キーを2秒以上
押すと周波数が
連続して変わる



(2) ▲▼キーでの合わせ方

▲▼キーで周波数を変えることが出来ます。1回押す毎にチャンネルステップ分だけ周波数が変化します。0.5秒以上押しているとサーチ動作に変わりますが、2秒以上押しているとオートリピートに変わります。

100kHz(0.100MHz)以下になると自動的に1299.995MHzより始まります。1299.995MHzを越えると100kHzより始まります。

100kHz台が「0」又は「5」になるとピーブ音になります。

(3) キーボードからの入力

キーボードから直接周波数の入力が出てきます。

希望の周波数を入力して、最後に (EN) キーを押してください。

400MHzを入力するときは、(4)、(0)、(0)、(EN) と入れてください。

145.12MHzを入力するときは、(1)、(4)、(5)、(.)、(1)、(2)、(EN) と入れてください。

1MHz未満を入力するときは頭に0をつけて、例えば500kHzの場合(0)、(.)、(5)、(0)、(0)、(EN) と入れてください。

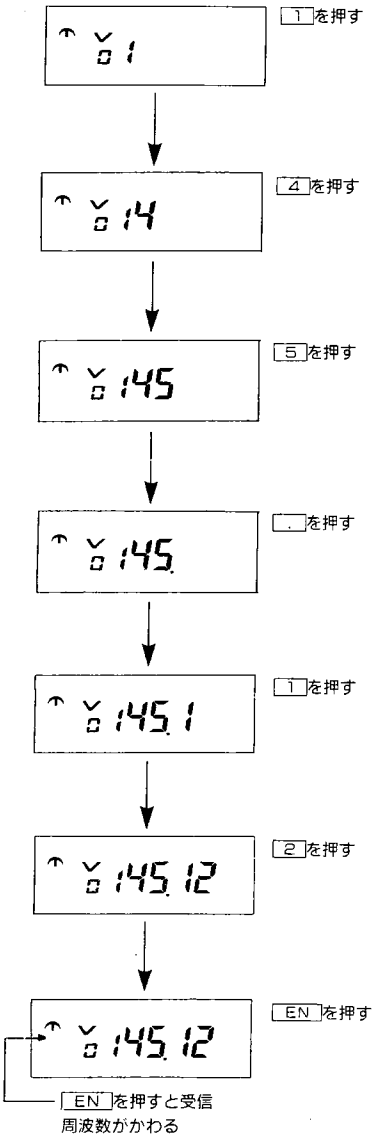
10kHzまで入力して (EN) キーを押してください。

キーボードより入力している途中で [C] キーを押すと、入力はキャンセルされます。

(注) 10MHz以上では、5kHzの入力はできません。

10MHz未満では、5kHzの入力はできます。

※キーボードから入力した場合、チャンネルステップに合うように丸められることがあります。



5-1-2 モードの切り替え

(MODE) キーを押す毎にNFM/WFM/AMの順で切り替わります。目的の電波にあわせてください。受信した電波が聞きにくいときなどは、モードを切り替えて聞き易いモードにしてください。

通常は、オートモードセレクト機能でその周波数帯にあったモードが選択されるようになっています。

メモリーモードでは、一時的に電波型式を変更することができますが、メモリーチャンネルを変えるともとに戻ります。



AM受信



NFM受信



WFM受信

(1)AMモードで受信する

(MODE) キーを、(▲) の表示は消えていて (A) の表示が点灯するまで押してください。(A) の表示だけ点灯している状態が、AMの受信状態です。

(2)NFMモードで受信する

(MODE) キーを、(▲) だけ点灯して (A) の表示が消えているようになるまで押してください。(▲) の表示だけ点灯している状態が、NFMの受信状態です。

(3)WFMモードで受信する

(MODE) キーを、(▲) (A) 共に点灯するまで押してください。(▲) (A) 両方とも点灯している状態が、WFMの受信状態です。

(注)短波帯やアマチュア無線では、AMやNFM、SSBなどが近いところで混在していることがあります。そのような周波数帯では、オートモードセレクトで選択された電波型式では正常に受信できないことがあります。

電波によってはテレビの映像信号などのように、音声信号以外の電波も出ています。そのような電波は、モードの切り替えをしても正常に受信できません。

5-1-3 ポリウムの合わせ方



音が大きくなる

なにか電波を受信してください。電波を受信している状態で、ゆっくりとポリウムつまみを時計方向に回すと音が大きくなります。好みの音量に合わせてください。

5-1-4 スケルチつまみの合わせ方



ザーという音がする
まで回す



ゆっくり回して音が
消えるようにする

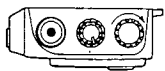
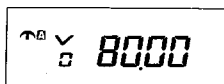
NFMにしてから、何も信号がでていない周波数に合わせてください。スケルチつまみを時計方向と反対に回すと、ザーというノイズが聞こえてきます。そこからゆっくりと時計方向に、ノイズが消えるところまで回してください。

(注)受信する電波型式によってスケルチレベルが変わるときがあります。

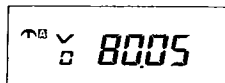
5-1-5 実際の電波を受信してみる

(8) (0) (.) (0) (EN)

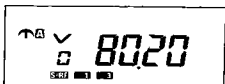
と入力する



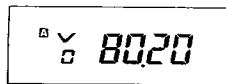
1クリック回す



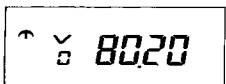
50kHz周波数が
UPする



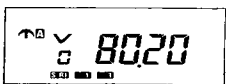
周波数を合わせる
(MODE)キーを押す



(MODE)キーを押す



(MODE)キーを押す



例として、80MHz付近のWFM局を受信してみます。キーボードから(8)(0)(.) (0) (EN)と入れてください。LCDに80.00と表示されます。

何も受信できないときは、ダイヤルつまみを回して周波数を変えてください。1クリック回すと0.05MHz(50kHz)周波数が変わります。80MHz付近に放送局がないのが分かっているときは[F1]、[F2]を押しながらダイヤルつまみを回して周波数を大きく変えてから、再度ダイヤルつまみで変えます。

(●5-1-1 周波数の合わせ方)

キーボードの▲▼キーでも1回押す毎に0.05MHz(50kHz)周波数が変わります。

何か受信できるとモードを選びます。最初は(▲) (A)両方も点灯しています。(MODE)キーを押してください。(A)の表示になります。(A)だけ点灯しているのがAMの受信状態です。もう一度(MODE)キーを押すと(▲)だけの表示になります。(▲)だけ点灯しているのがNFMの受信状態です。普通のFM放送ではAMやNFMではきれいな音で受信できません。もう一度(MODE)キーを押してください。(▲) (A)の表示が変わります。(▲) (A)両方も点灯しているのがWFMの受信状態です。普通のFM放送局なら、きれいな音で受信できるようになります。周波数やモードが合っても聞き取りにくいときは、以下のことを確認してください。

◎ビルの中やビル蔭では聞き取りにくいことがあります。聞き取り易いところまで移動してみてください。

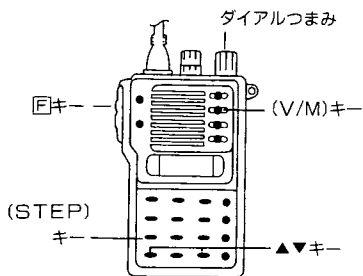
◎アンテナを太いアンテナにしてください。細いアンテナは高い周波数用です。

5-2 VFOモード

連続的に周波数を変化させて、電波を受信する時に使います。(V/M) キーを押して (V) の表示が点灯しているときに、VFOモードです。

VFOモードでは、周波数はチャンネルステップ毎に変化します。(●5-1-1 周波数の合わせ方)

5-2-1 チャンネルステップの変更



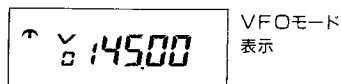
チャンネルステップは、5/9/10/12.5/20/25/30/50/100 kHzの9個が選べます。このうち9kHzは、522kHz～1629kHzで選べます。周波数帯のチャンネルステップに合わせて選んでください。

◎VFOモードで、(F)キーを押したままで (STEP) ((F)) キーを押してください。その時のチャンネルステップが表示されます。

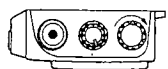
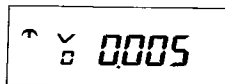
◎ダイアルつまみか▲▼キーを押すとチャンネルステップが変化します。このみのチャンネルステップに合わせてください。

◎チャンネルステップを選び終わったら (V/M) キーを押してください。VFOモードに戻ります。

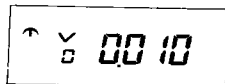
(注)チャンネルステップを12.5kHzからそれ以外のチャンネルステップにするか、12.5kHz以外から12.5kHzにすると、周波数が変わることがあります。



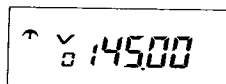
(F)キーを押しながら (STEP)キーを押す



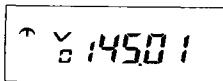
ダイアルつまみを回す



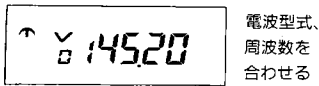
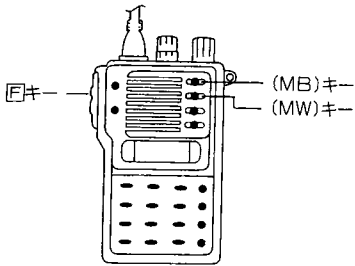
(V/M)キーを押す



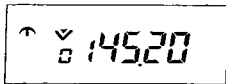
ダイアルつまみを回す



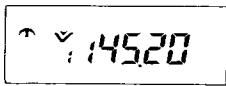
5-2-2 メモリー書き込み



↓
Fキーを押しながら
(MB)キーを押す



↓
Fキーを押しながら
▲キーを押す



↓
Fキーを押しながら
(MW)キーを押す



サブバンクのメモリー1CHに
書き込まれました

VFOモードで表示している周波数と電波型式をメモリーに記憶できます。

◎VFOモードで、記憶したい周波数と電波型式を合わせてください。

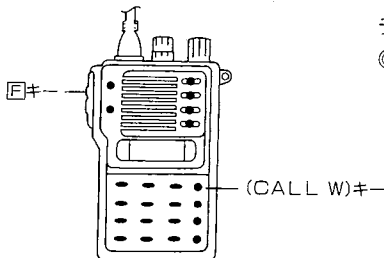
◎記憶したいメモリーバンクを選択してください。

(●5-3-1 メモリーバンクの選び方)

◎Fキーを押したまま▲▼キーを押して記憶したいメモリーチャンネルを選んでください。Fキーを押しながら▲キーを押すと、メモリーチャンネル表示が1CHアップします。

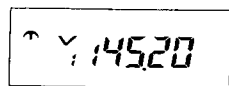
◎Fキーを押したままで(MW)((V/M))キーを押してください。メモリーに記憶されます。

5-2-3 コールチャンネルの書き込み

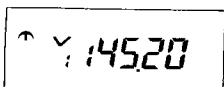


VFOモードで表示している周波数と電波型式をコールチャンネルに記憶できます。

◎VFOモードで、記憶したい周波数と電波型式を合わせてください。



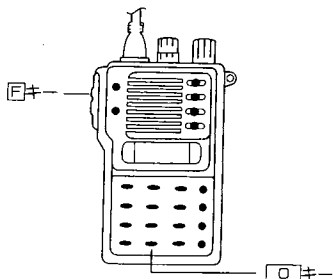
☐キーを押しながら
(CALL W)キーを押す



コールチャンネルに
書き込まれました

☐キーを押したままで (CALL W) ((CALL)) キーを押してください。コールチャンネルに記憶されません。

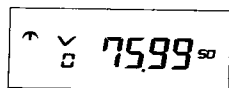
5-2-4 オートモードセレクト機能



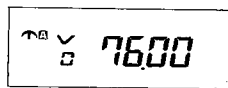
VFOモードでよく使われる周波数帯にあわせて、モードやチャンネルステップを自動的に選択する機能です。周波数を選択すると自動的に選択されます。オートモードセレクト機能を停止させることもできます。☐キーを押したままで (O) キーを押してください。オートモードセレクト機能が停止します。もう一度☐キーを押したままで (O) キーを押すとオートモードセレクト機能が働きます。

オートモード機能で選択されるチャンネルステップとモード

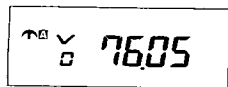
| | | | |
|-------------|-------------|-------|-----|
| 0.100MHz～ | 0.520MHz | 5kHz | AM |
| 0.522MHz～ | 1.629MHz | 9kHz | AM |
| 1.630MHz～ | 29.995MHz | 5kHz | AM |
| 30.000MHz～ | 75.995MHz | 5kHz | NFM |
| 76.000MHz～ | 89.995MHz | 50kHz | WFM |
| 90.000MHz～ | 107.995MHz | 5kHz | NFM |
| 108.000MHz～ | 137.995MHz | 5kHz | AM |
| 138.000MHz～ | 1299.995MHz | 5kHz | NFM |



周波数をUPする



周波数をUPする



(注) オートモードセレクト機能を停止して9kHzのチャンネルステップを使うと、表示周波数と受信周波数にズレが出る事があります。モードや、チャンネルステップを変更しても、オートモードでチャンネルステップやモードが元に戻る事があります。

5-3 メモリーモード

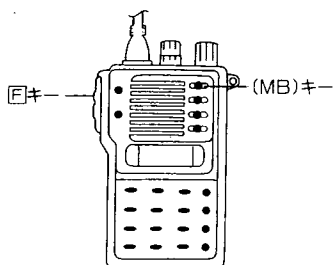
よく聞く周波数を、メモリーに記憶させておくことができます。メモリーは全部で100CH (チャンネル) あります。そのうち20CHは、スキャン用に使います。

残りの80CHが自由に使えるメモリーになります。

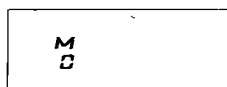
メモリーはメインバンク、サブバンク、スキャンバンクの3つのメモリーグループに分かれます。メインバンク、サブバンクは各40CHで、スキャンバンクは20CHになっています。

(V/M) キーを押して、V/M表示を (M) にするとメモリーモードになります。

5-3-1 メモリーバンクの選び方



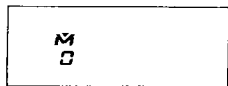
(M)キーを押しながら (MB) ((MODE)) キーを押してください。メモリーバンクがメインバンク、サブバンク、スキャンバンクの順に変わります。



メインバンク

(1)メインバンク

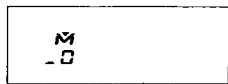
V/M表示だけ点灯していて、メモリーバンク表示は消灯しています。



サブバンク

(2)サブバンク

V/M表示とメモリーバンク表示が点灯しています。

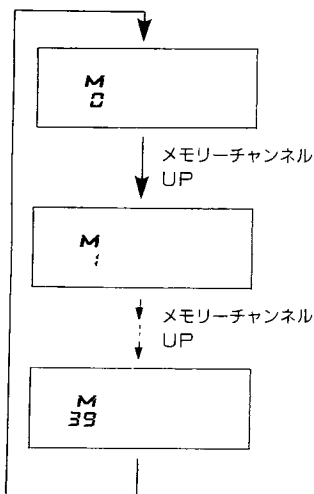


スキャンバンク

(3)スキャンバンク

V/M表示とメモリーバンク表示が点灯していて、メモリーチャンネル表示が _0~_9、L1~U5になります。

5-3-2 メモリーチャンネルの選択



メモリーモードで、ダイヤルつまみを回すか▲▼キーを押すとメモリーチャンネルを変えることができます。メモリーチャンネルはそのバンク内で変わります。メインバンクとサブバンクでは、0CHから始まり39CHまであります。

39CHからダイヤルつまみを時計方向に回すか▲キーを押すと0CHになります。

0CHからダイヤルつまみを時計方向と反対に回すか▼キーを押すと39CHになります。

スキャンバンクは、スキャンストップ周波数の0CHの__0から__9、スキャンエッジのL1、U1、L2、～U5の順にならんでいます。U5CHからダイヤルつまみを時計方向に回すか▲キーを押すと__0CHになります。__0CHからダイヤルつまみを時計方向と反対に回すか▼キーを押すとU5CHになります。

5-3-3 メモリーシフト機能

メモリーに記憶している内容をVFOに書き込むことができます。

メモリーモードで、**[F]**キーを押しながら(MW)((V/M))キーを押すとその時のメモリーチャンネルの内容がVFOに書き込まれます。

5-4 コールチャンネル

(CALL)キーを押すとコールチャンネルを呼び出すことができます。

コールチャンネルを呼び出している状態で(CALL)キーを押すと、コールチャンネルを呼び出す前のモードに戻ります。コールチャンネルのときは、メモリーチャンネル表示が(C)になっています。

VFOモード → コールチャンネル → VFOモード

メモリーモード → コールチャンネル → メモリーモード

5-5 スキャン機能

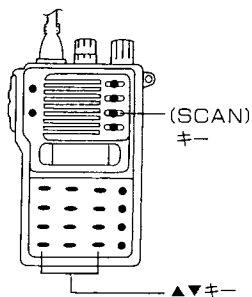
周波数を探し出したり、いくつかの周波数の状態をモニターするのに使います。

スキャンは、VFOモードでできるVFOスキャン、サーチ、プログラムスキャンと、メモリーモードでできるメモリースキャン、メモリースキップスキャン、モードセレクトスキャンがあります。

また、スキャンストップ時間を制限できるタイマースキャンの設定ができます。スキャン中は小数点表示が点滅しています。

(注)スキャンをするときは、必ずスケルチボリュームを調整して、信号がないときは音が出ない（BUSY表示が消灯している）ようにしておいてください。

5-5-1 VFOスキャン

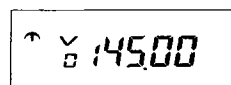


VFOモードで (SCAN) キーを押すとVFOスキャンができます。スキャンは、最後に操作されたアップ/ダウンの方向にスキャンします。

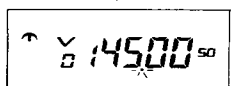
VFOスキャンは、VFOで変化できる0.100MHz～1299.995MHzまでを連続的にスキャンします。オートモードセレクトが設定されていると、スキャン中もオートモードセレクト機能が働きます。

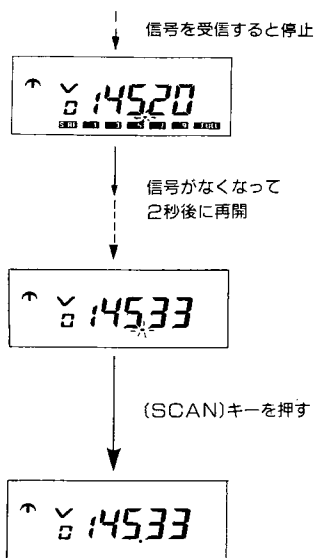
スキャン中に再度 (SCAN) キーを押すとスキャン動作は解除されます。((V/M)キー、(PS1)～(PS5)キーでも解除できます)

スキャン中に信号を受信すると (BUSY表示が点灯する)、その周波数でスキャンは停止します。信号が無くなってから2秒経過するとスキャンは再開されます。スキャン中にダイヤルつまみや▲▼キーでスキャン方向を変えることができます。

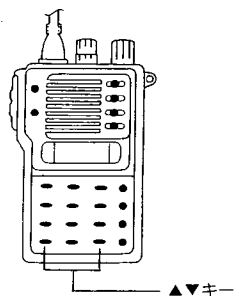


(SCAN)キーを押す





5-5-2 サーチ機能

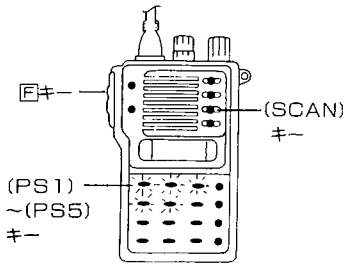


VFOモードで▲▼キーを1秒程度(0.5~2秒)押してから離すとサーチを始めます。2秒以上押しているとおートリピートになります。

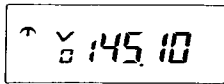
サーチ中に信号を受信すると、その周波数で止まってサーチ動作を解除します。サーチ中に(▲▼)キーを押してもサーチは解除されます。

サーチ中にダイヤルつまみでスキャン方向を変えることができます。

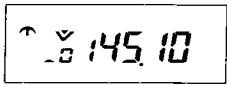
5-5-3 プログラムスキャン



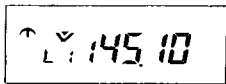
下限周波数を合わせる



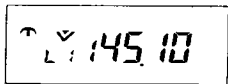
メモリーバンクを
スキャンバンクにする
[F]+(MB)キーを2回
押す。



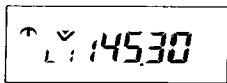
メモリーチャンネルを
L1にする
[F]+▼キー



メモリー書き込みする
[F]+(MW)キー



上限周波数
を合わせる



VFOモードで特定の範囲だけのスキャンを行いません。

VFOモードで[F]キーを押しながら(PS1)((1))、(PS2)((2))、~(PS5)((5))のキーを押すと、それぞれ(L1、U1)、(L2、U2)、~(L5、U5)で決められた範囲をスキャンします。

スキャン中に(SCAN)キーを押すことでスキャン動作を解除することができます。((V/M)キー、(PS1)~(PS5)キーでも解除できます)

VFOスキャンと同じように、スキャン中にダイヤルつまみや▲▼キーでスキャン方向を変えることができます。スキャン中に信号を受信すると(BUSY表示が点灯する)、その周波数でスキャンは停止します。信号が無くなってから2秒経過するとスキャンは再開されます。

(1)スキャンエッジ(L、U)の設定

スキャンしたい範囲の上限と下限を、UとLに設定します。VFOモードでのメモリー書き込みで設定します。

(注)LとUは(L1、U1)、(L2、U2)のように、必ずペアで設定してください。

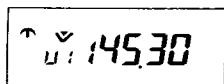
LとUのチャンネルステップが合っていないと、正常な範囲でスキャンできないことがあります。

(2)プログラムスキャン時の注意

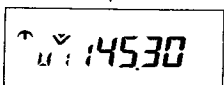
スキャンするときの周波数が、スキャン範囲に入っていないときはスキャンエッジにまで跳んでスキャンを始めます。

オートモードセレクト機能が設定されていると、スキャン中でもチャンネルステップや電波型式が変わります。

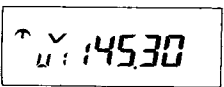
メモリーチャンネルを
U1にする
[F]+▲キー



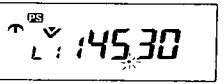
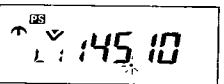
メモリー書き込みする
[F]+(MW)キー



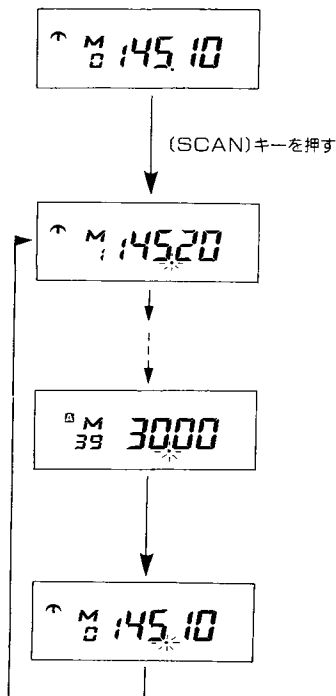
PS1の上下限の
設定終了



[F]キーを押しながら
(PS1)キーを押す

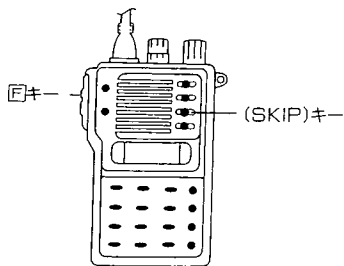


5-5-4 メモリースキャン



メモリーチャンネルのスクリーンを行ないません。メモリーモードで、(SCAN)キーを押すとメモリースキャンを行ないます。メモリースキャンは、それぞれのメモリーバンクの中だけで行なわれ、別のバンクに移ってスクリーンさせることはできません。スクリーン中に (SCAN) キーを押すとスクリーン動作は解除されます。((V/M) キーでも解除できます) VFOスクリーンと同じように、スクリーン中にダイヤルつまみや▲▼キーでスクリーン方向を変えることができます。スクリーン中に信号を受信すると (BUSY表示が点灯する)、その周波数でスクリーンは停止します。信号が無くなってから2秒経過するとスクリーンは再開されます。

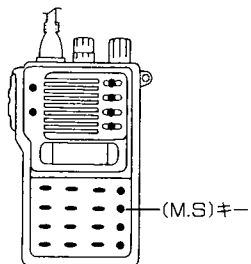
5-5-5 メモリースキップスキャン



メモリースキップ表示

メモリースキャンの時に特定のメモリーチャンネルだけを飛ばしてスクリーンを行ないません。メモリーモードで、[F]キーを押しながら (SKIP) ((SCAN)) キーを押してください。メモリースキップ表示 (S) が点灯します。(S) が点灯しているとスキップが設定されています。(S) が設定されているときに、再度 [F]キーを押しながら (SKIP) キーを押すとメモリースキップ表示は消灯します。メモリーに書き込んだときに、メモリースキップは解除されます。メモリースキップが設定されているメモリーチャンネルは、メモリースキャンのときにスキップされます。

5-5-6 モードセレクトスキャン



メインバンクの
0CH, 1CH, 5CH
のみNFMの時

メモリーモードで、同じ電波型式だけを選んでスキャンします。

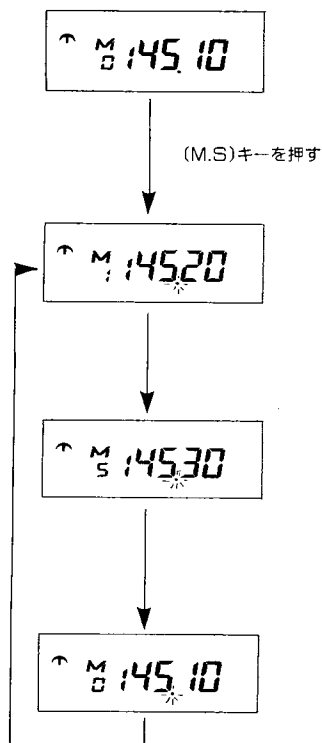
メモリーモードで、(M.S)キーを押すとモードセレクトスキャンを行ないます。

モードセレクトスキャンは、その時の電波型式と同じ電波型式のメモリーを探してスキャンします。

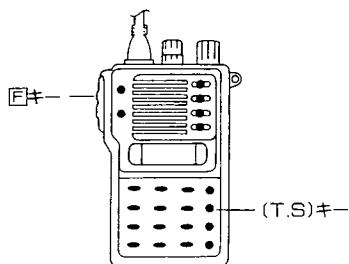
スキャン中に (SCAN) キーを押すとスキャン動作は解除されます。

VFOスキャンと同じように、スキャン中にダイヤルつまみや▲▼キーでスキャン方向を変えることができます。スキャン中に信号を受信すると (BUSY表示が点灯する)、その周波数でスキャンは停止します。信号が無くなってから2秒経過するとスキャンは再開されます。

(注)メモリーモードで、一時的に電波型式を変えても、元の電波型式でスキャンします。



5-5-7 タイマースキャン



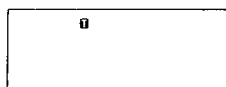
スキャンで停止したときに、5秒間経過すると自動的にスキャンを再開する機能です。

[F]キーを押しながら、(T.S) ((M.S)) キーを押すと、(T.) の表示が点灯してタイマースキャンが設定されます。全てのスキャンのときに使えます。

タイマースキャンが設定されているときに、再度[F]キーを押しながら (T.S) キーを押すと (T.) の表示が消灯してタイマースキャンの設定が解除されます。

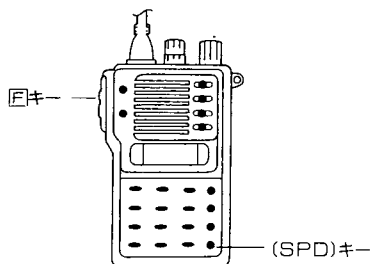
タイマースキャンが設定されていると、信号が入っても停止してから5秒後にスキャンを再開します。

初期設定はタイマースキャンになっています。



タイマー
スキャン表示

5-5-8 スキャンスピードの変更



スキャンスピードは、最初1秒間に10CHになっていますが15/20CHにすることができます。

[F]キーを押しながら (SPD) ((.)) キーを押してください。スキャンスピード表示が変わります。スキャンスピード表示のバーが長くなるほど、スキャンスピードは速くなります。バーが一つで10CH/秒で、二つで15CH/秒、三つで20CH/秒です。

(注)スキャンスピードが速いと、弱い信号のときに止まりにくくなります。



10CH/秒

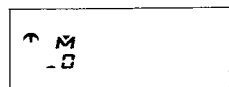


15CH/秒



20CH/秒

5-5-9 スキャンストップ周波数の記憶



__9~__9

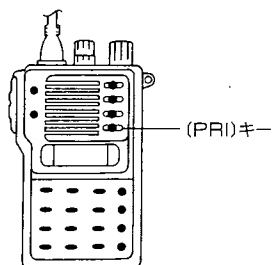
スキャン中にストップした周波数を、自動的に記憶しません。

ストップした周波数は、__0CHに記憶されます。それ以前に__0CHに入っていた周波数は消されます。順に次のチャンネルに記憶されて、__9CHまでいくと、__0CHより記憶して行きます。

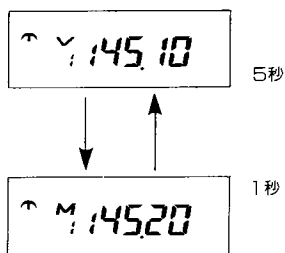
5-6 プライオリティー機能

ふたつの周波数を調べる時に使う機能です。VFOとメモリー間で動作します。

2つの周波数を5秒間と1秒間交互に受信します。1秒間の受信中に信号を受信すると、5秒間の受信になります。



VFOとメモリー間でプライオリティー動作します。VFO側を5秒メモリー側を1秒のVFOプライオリティーと、メモリー側を5秒VFO側を1秒のメモリープライオリティーがあります。

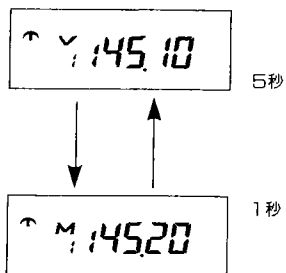


(1)VFOプライオリティー

VFOモードで (PRI) キーを押すと、VFOを5秒間、そのときのメモリーチャンネルを1秒間でプライオリティー動作を始めます。

メモリーチャンネルで信号を受信すると、メモリーチャンネル側の受信が5秒に延長されます。信号を受信していても5秒経つとVFO側に戻ります。

プライオリティー動作中に (PRI) キーを押すとプライオリティー動作を解除してVFOモードに戻ります。



②メモリープライオリティー

メモリーモードで (PRI) キーを押すと、メモリーチャンネルを5秒間、VFOを1秒間でプライオリティー動作を始めます。

VFO側で信号を受信すると、VFO側の受信が5秒に延長されます。信号を受信していても5秒経つとメモリーチャンネル側に戻ります。

プライオリティー動作中に (PRI) キーを押すとプライオリティー動作を解除してメモリーモードに戻ります。

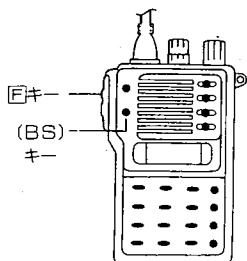
5-7 バッテリーセーブ機能

電池の消耗を防ぐために、受信と休止を繰り返す機能です。

普通、電波が出ていないときでも受信回路は働いています。そのため連続して受信していると電池はすぐになくなってしまいます。受信と休止を繰り返してやると、休止しているときは電池の消耗が抑えられますので、普通に受信しているのに比べて電池は長持ちします。

バッテリーセーブ機能が動作しているときは、信号を受信するか、なにか操作されるとバッテリーセーブ機能を停止して受信状態に戻ります。5秒間、信号を受信せず、何も操作されないとバッテリーセーブ動作に戻ります。

5-7-1 バッテリーセーブ機能のON/OFF



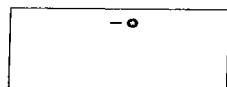
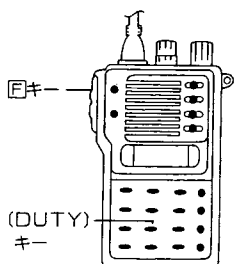
☐キーを押しながら、(BS) ((MONI)) キーを押してください。(●)のBS表示が点灯して、BS動作に入ります。

(●)のBS表示が点灯しているときに、再度☐キーを押しながら (BS) ((MONI)) キーを押すと (★) のBS表示が消灯して、BS動作を解除します。



BS表示

5-7-2 デューティの変更



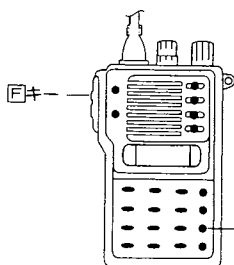
デューティ表示

バッテリーセーブ動作の受信と休止の時間を変えることができます。

最初は、受信を0.2秒、休止を0.8秒の繰り返しになっています。[F]キーを押しながら (DUTY) ((B)) キーを押すと、BS DUTY表示 (—) が点灯して0.4秒の受信、0.6秒の休止になります。

BS DUTY表示が点灯しているときに、[F]キーを押しながら (DUTY) キーを押すと、BS DUTY表示は消灯して0.2秒の受信、0.8秒の休止になります。

5-8 オートパワーオフ機能



オートパワー
オフ表示

一定時間経つと、自動的に休止状態にして切り忘れによる電池の消耗を抑える機能です。30分間、信号を受信せず、何も操作されないとオートパワーオフになり、休止状態になります。バッテリーセーブの時の休止と違い表示回路やコントロール回路まで休止になります。

[F]キーを押しながら (APO) ((EN)) キーを押すと、(AP) のオートパワーオフ表示が点灯して、オートパワーオフ機能が動作し始めます。

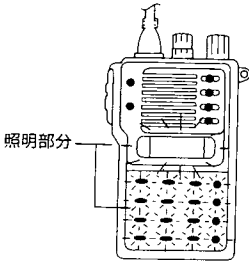
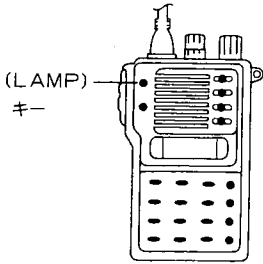
オートパワーオフ表示が点灯しているときに、再度[F]キーを押しながら (APO) キーを押すとオートパワーオフ表示は消灯して、オートパワーオフ機能は解除されま
オートパワーオフ機能で休止になったのを解除するには、電源を再度入れ直すか、ダイヤルつまみを回してください。

(注) オートパワーオフで休止になった状態でも、電源を切った状態よりかなり電流を消費しますので、使用しないときは必ず電源を切るようにしてください。

5-9 ランプ機能

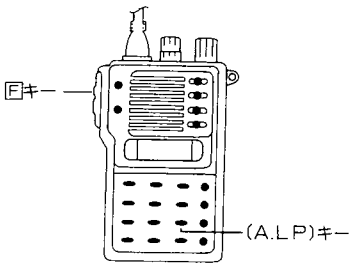
暗いところで使いやすいように、LCDとキーボード部をランプで照らします。

5-9-1 ランプのON/OFF (LAMP) キーを押すと、5秒間照明が点灯します。ランプが点灯中に (LAMP) キーを押すとランプは消灯します。

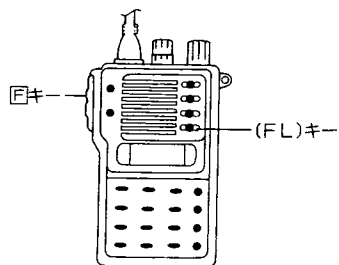


5-9-2 オートランプ機能

キーを押すと自動的にランプが点灯する機能です。
 [F]キーを押しながら、(A.LP) ((9)) キーを押すと、PL表示 (PL) が点灯して、オートランプ機能が動作します。PL表示が点灯しているときに、なにかキーを押すとランプが5秒間点灯します。
 PL表示が点灯しているときに、[F]キーを押しながら (A.LP) キーを押すと、PL表示は消灯して、オートランプ機能は解除されます。



5-10 ファンクションロック機能



待ち受けなどしているときに、間違っ
て操作しないようにする機能です。

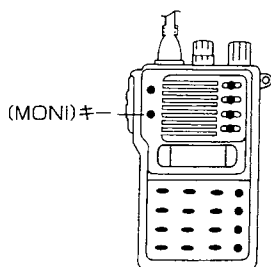
(F)キーを押しながら、(FL) ((PRI))
キーを押すと、ファンクションロック
表示 (FL) が点灯して、ファンクシ
ョンロック状態になります。

ファンクションロック状態では、ファン
クションロックの解除とランプ機能、
モニター機能だけ動作します。ファン
クションロック状態で、(F)キーを
押しながら (FL) キーを押すとファン
クションロック表示は消灯して、ファン
クションロックが解除されます。



ファンクション
ロック表示

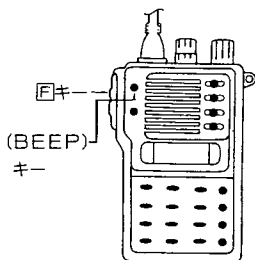
5-11 モニター機能



スケルチ機能が働いて、聞こえなかつ
たり、途切れたりするような信号を連
続して受信するときに使います。

(MONI) キーを押すと、電波の強さ、
スケルチポリウムのレベルに関係無
く音がでます。(MONI) キーを離す
とスケルチ機能が働きます。

5-12 ビープ音のON/OFF



キーを押したときや、周波数の10kHz
台が00、50になるとビープ音がなる
ようになっています。

(F)キーを押しながら、(BEEP) ((LAMP))
キーを押すとビープ音がでなくなり
ます。再度(F)キーを押しながら
(BEEP) キーを押すとビープ音が
でます。

8 定格

- 受信周波数範囲：2～905MHz
(動作範囲 100kHz～1299.995MHz)
 - 受信電波型式：AM/FM(NFM)/ワイドFM(WFM)
 - チャンネルステップ：5/9/10/12.5/20/25/30/50/100(kHz)
 - アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡
 - 電源電圧：DC9V標準
DC6V～15V 接続可
 - 消費電流：バッテリーセーブ時 約24mA(1:4)
最大出力時 約300mA以下
 - 使用温度範囲：-10°C～+60°C
 - 寸法：標準時/110(H)×53(W)×37(D)mm
EBP-14N実装時/110(H)×53(W)×30(D)mm
 - 重量：370g(標準時)、320g(EBP-14N実装時)アンテナ含まず
 - 受信方式：AM/FM トリプルスーパーヘテロダイン方式
WFM ダブルスーパーヘテロダイン方式
 - 受信感度：AM 3～25MHz +4dBμ (10dB S/N)
25～905MHz -2dBμ (10dB S/N)
NFM 2～25MHz -2dBμ (12dB SINAD)
25～905MHz -8dBμ (12dB SINAD)
WFM 2～25MHz +16dBμ (12dB SINAD)
25～905MHz +10dBμ (12dB SINAD)
 - 選択度：AM 15kHz以上/-6dB
FM 15kHz以上/-6dB
WFM 150kHz以上/-6dB
 - 低周波出力：0.15W以上(9V・8Ω 10%歪時)
 - 低周波負荷インピーダンス：8Ω
- (注)定格等は、改良のため予告なく変更する場合があります。
測定はJAI A測定法による。一部社内測定法を含む。